

目次

P1	巻頭言 原不二子理事	P10-12	理解講演会「今、ブラジルが熱い！」
P2-7	30周年記念事業 「歌と踊りで世界をめぐる」	P13	インド大使館訪問記
P8	フィンランドのクリスマス料理	P14	「エッセイ」三輪公忠名誉会長
P9	新年懇親会	P15	東日本の教育復興を支えるために
		P16	事務局便り / 編集後記

港ユネスコ協会理事 原 不二子



寝ても覚めても福島県の子どもの持つ母親たちのことが脳裏から離れない毎日です。「子どもは未来の宝」、「子ども手当を手厚くする」と言いながら、その子どもたちを護ることが一向に為されていないのが現状です。福島県知事が、せめて18歳未満の子どもや青少年を原子力発電所事故に伴う放射線被曝等の影響から救うため医療費を無料にして欲しい、と首相に願い出ましたが、それも結局は、できないことと断られました。福島県は、国がしないなら、県で行うことを決定しました。

現役世代の私たちは、未来を担う子どもたちに何を教えてしまっているのでしょうか。技術の継承も立派かもしれませんが、それより大切な「人間として護るべき道徳心」を身をもって教えているのでしょうか。利権に繋がる人たちで原子力安全委員会を創り、科学的な根拠をよそに、安易に安心安全を風潮するのに甘んじ、最悪の事態に備えることを怠ってしまったのではなかったのでしょうか。その結果、市民の生命を脅かし、生活を奪い、故郷・祖国を汚染し、大気・大洋を通して世界中に放射能を撒き散らしています。

その仕組みを創り、その上に長年あぐらをかいていた前政権も、その処理に戸惑う現政権も、一向に現状に対する責任を取ろうとしないどころか、この国難、いえ、人類に対する大きな過ちを犯しながらその責任をとらないだけでなく、政局の具にさえ利用しているのです。

統治機構である政府は何のためにあるのかといえば、一にも二にも市民の生命と財産を護るためにあるのです。19世紀の英国の哲学者ハーバート・スペンサー（1820—1903）の言葉を借りれば、「政府は全ての人々が幸福に対する同等の権利を持っているという法則を実行する為に存在している。市民の権利が政府より尊いのは、目的が手段より尊いものと同じ」なのです。

子どもを放射線被曝から護るために、働くために県内に残る夫、父親をおいて、後ろ髪をひかれながらひとまず他県に身を寄せる母親たち。慣れない土地での生活を懸命に生きる勇気ある母親たちが恐れているのは、帰郷したときに浴びるであろう「あなたたちは逃げたくせに」という冷たい言葉だといいます。彼女らの勇気を称えるべき人々からの仕打ちはどれだけ心に傷を残し、社会の結束を壊すでしょうか。

皇后さまが英訳され、1982年と2001年に英詩朗読会で朗読された竹内てるよ（1904—2001）の詩、『生まれて何も知らぬ吾子の頬に 母よ 絶望の涙を落すな』（文春文庫）を、子どもを護るため信念をもって頑張っている、勇気あるお母さんたちに送りたいとおもいます。

株式会社ディプロマット代表取締役、(財)尾崎行雄記念財団常務理事

歌と踊りで世界をめぐる

日時： 2011年11月19日(土) 14:00~16:30

会場： 港区立高輪区民センター・区民ホール(定員：250名)

創立30周年特別事業として、「国際都市・港区らしい何か」をしたいと担当者が知恵をしぼり、在住の各国の方々に、ご出身地の歌と踊りをご紹介していただく催しを企画いたしました。

港区に所在する東京インターナショナル・スクール、インターナショナル・セカンダリースクール、そして、テンプル大学ジャパンキャンパスからご協力いただけることになりました。出身地も世界各地から、出来るだけ偏りのないよう配慮してご出演をお願いするようにいたしました。

ご出演下さったのは、アマチュアあるいはプロの方々ですが、皆様が気持ちよくボランティアとしてご協力下さいました。アマチュアの方々は大変な思いで練習を重ねて素晴らしい演技を見せて下さいましたし、プロの方々は流石に見ごたえのある舞台を演出して下さいました。心から感謝いたします。

19日午前中のリハーサルが始まる頃から大雨となりました。しかし、みんなの心配をよそに、本番の始まる頃は満席の大入りとなりました。



司会は会員の大崎マキ子、山澤絵海、金有希(韓国からの大学院留学生)の3名が担当いたしました。

まずは、高井光子会長の挨拶です。「本日はお足元の悪い中、お出ましいただき有難うございます。港ユネスコ協会は港区に本拠を置くボランティア組織で、1981年10月に誕生いたし、今秋30周年を迎えました。現在、港区には120か国の2万人余の外国人が住んでおられ、住民の9%以上を占めるという国際地域でございます。

30周年記念事業の一つとして、今回、日本に住んでおられるいろいろなお国の方に、ふるさとの国の歌や踊りや楽器演奏をご披露していただく催しを計画いたしました。

港区で学んでおられる各国の小学生、中高生、大学生をはじめ、まさに、7歳から77歳までにわたる幅広い年代の方々にご出場くださいます。ご出身の地域も、アジア、アフリカ、ヨーロッパ、北米、中南米と全世界にわたっています。

初めに、何よりもご出演を快諾して下さいました皆様に心からお礼申し上げます。皆様の暖かいご協力がなければ今日の催しは不可能でございました。

会場の皆様、どうぞごゆっくりと、歌と踊りで、世界旅行をお楽しみいただければ幸いです。」

続いて清水軍治副会長・実行委員長の挨拶です。「本日は創立30周年記念コンサートにご来場いただきまして、誠にありがとうございます。“音楽は世界のことば”といわれていますが、正に、その通りで、その国々に根ざしたすばらしい音楽が存在します。言葉が通じなくても、心と心がむすばれて、そのお国柄が見えてくるものです。

エレキバンドのサウンド、可愛い子ども達の歌声、バグパイプの音色と衣装、若さ溢れるダンス、ヨーグルトの味がする歌、日本に最も近い国の伝統舞踊、地球の反対側から聞こえて来るリズムとダンス、日本人の心にしみ入る男声合唱団のハーモニー……

出演して下さいました皆様のご協力と、後援の港区教育委員会、東京都ユネスコ連絡協議会、そして、スタッフの多くの皆様に感謝しつつ、“さあ一聞きましょう、見ましょう、そして楽しみましょう”



《プログラム》 (出演者のお名前は敬称略させていただきます)

1) インターナショナル・セカンダリースクール (International Secondary School 略して ISS)

軽音楽部、チアリーディング/ダンスクラブ (8名)

1. チアリーディング /チアー・ミックス(Cheer mix)
2. ダンス Lip Gloss
3. バンド Funky Monks
4. バンド Medley



《港区に所在する共学の中学・高等学校です。7 学年で 40 名という大変小さな学校である私たちは、1 人 1 人の必要性に合わせた国際教育を行っています。大家族のようなアットホームな環境の中で生徒たちは学年の枠を越えて学校生活を楽しんでいます。本日のチアリーディング、ダンス、バンド音楽では、さまざまな国籍、年齢の生徒たちが丸となり、若さ溢れるパワーをお届けします。》



【出演後の感想】：30 周年記念イベント「世界の歌と踊り」に出演の機会をいただき、大変ありがとうございました。私たち自身も楽しくダンスや演奏させてもらい、また、他の皆さんの演奏もとても楽しませていただきました。このような機会がありましたら、またぜひ ISS を出演させてください。再び皆様にお会いできることを楽しみにしております。(ISS 出演メンバーより)

2) 東京インターナショナルスクール (Tokyo International School 略して TIS)

合唱 (7~12 歳児 30 名) 指揮者：ミゲール アランブロ (Miguel Arambulo)

ピアノ： 持庵勉 (もっこい つとむ)

1. バヌワ (Banuwa) (アフリカ民謡)
2. ザ・カラーズ・オブ・ウィンター(The Colors of Winter)
3. スターズ (Stars)
4. ワカティ・ワ・アマニ (Wakati Wa Amani 平和の時)



《共学で、宗教を問わず、40 か国以上の国から 321 人の生徒が集う学校です。今日はアフリカやアメリカなど、色々な国の歌を歌いたいと思います。指揮者の教師ミゲールからのメッセージです。「音楽は人をつなぎます。国籍は関係ありません。音楽によって皆様の気持ちを一つにすることができ、私たちはそんなに違わないんだ、と気付くのです。どうぞ楽しんで下さい。」》



【出演後の感想】 今回、30 周年イベントに参加させていただき、大変光栄でした。ホールはとても綺麗で大きく、最初は少し緊張していましたが、皆の心をつにして最高の合唱をさせていただいたつもりです。

私達が歌うことを楽しんだのと同じように、皆様にも TIS 合唱団の歌をお楽しみ頂いていましたら嬉しく思います。このイベントに参加するという特別な機会を頂きましたことに心から感謝をし、港ユネスコ協会様の積極的な活動が長く続いていきますよう、お祈りしております。ありがとうございました。(TIS 合唱団メンバーより)

3) 父と子のバグパイプ演奏

大塚清一郎: エッセイスト・元駐スウェーデン大使

大塚清輔: 中央大学法学部 4 年生

1. スコットランド・ザ・ブレイブ (勇壮な行進曲、非公式に国家扱いをうけている歌)
2. ハイランド・カテドラル (「ハイランド賛歌」から)
3. アメージング・グレイス(賛美歌・素晴らしき恩寵)



「日本では珍しい「父と子のバグパイプ」です。20年前、スコットランドのエディンバラ城で聞いたバグパイプの音色に魅せられ、すぐさまバグパイプの先生を探し練習を開始。息子は8才の時に始めて、病みつきとなりました。

ニューヨーク総領事の仕事をしていた時、セント・パトリック・ディのパレードに、東京バグパイプ・バンドのメンバーとして5番街を吹奏行進、最優勝バンドとして表彰されました。》



【出演後の感想】：この度「歌と踊りで世界をめぐる」に参加させて頂き、親子共々、国際文化交流の楽しさを満喫することが出来ました。新しい友人にも巡り会えました。バグパイプを初めて聴く方々が多く、独特の勇壮な音、哀愁のある音色をお楽しみ頂けたようで、嬉しく思いました。港ユネスコ協会の益々のご発展をお祈り申し上げます。

4) テンプル大学ジャパンキャンパス (Temple University, Japan Campus)

マルチダンス部 Tink-Up-Jewels (5名) と、終電ボーイズ (5名)

曲名：フライ・アウェイ・ミックス Fly away mix

「私たちマルチダンスクラブは1年半にわたり活動してきました。アメリカ大学の日本校ということで、



国籍もバックグラウンドもバラエティ豊かな学生がメンバーとして参加しています。それぞれの文化を、ダンスを通して融合していくという意味で「マルチ」ダンスクラブという名前がつけられています。》



【出演後の感想】 *港ユネスコ協会のイベントに参加することができて嬉しく思っています。大学とダンスを両立しながらの練習は本当に大変でしたが、後から振り返るといい思い出です。時間があまり取れなかったりなどの障害はありました。しかし、みんなで一緒に一つの作品を作り上げ、努力することで感じた達成感はかけがえのないものです。これからも活動を続けて、また同じような経験ができればいいなと思っています。(風間 ふうき)

*今回のイベントのために新たにグループを編成し、一ヶ月半という短い期間の中で作品を作りました。10人のメンバーで人種もダンスの技術も違い、学業、インターン、バイト、就職活動と両立しながらの練習は決して簡単なものではありませんでした。しかしあの様なイベントで発表する機会を与えて頂き本当に貴重な経験ができました。私個人、あのイベントを持って学校を卒業したため、学生生活最後の最高の思い出ができ、素敵な締めくくりとなりました。これからもあの様なイベントを通して文化を広めてください！本当にありがとうございました！（高橋理奈）



5) ブルガリアの民謡と伝統楽器ガデゥルカの演奏

歌：マルコバ・カテリナ(Katerina Markova) (博士課程留学生)

ガデゥルカ(gadulka)演奏と歌：ヨルダン・マルコフ(Yordan Markov)



1. セドナオ・エ・ジョレ・ドス (民謡)

(ジョレという男の子が好きな女の子に靴下を編んでいるという内容の曲)

2. トラキヤのルチェニツァ[ガデゥルカの演奏]

(ブルガリアで広く愛される早いダンス音楽)

3. ペリン地方の民謡のデドレー (ブルガリアとマケドニアの民謡。男女の恋物語であふれるロマンチックな民謡のメドレー)

「ヨルダンさんはプロの音楽家。2人は偶然に、同じ地方の出身です。ブルガリアは1300年以上の歴史を持ち、豊かな民族文化を誇っています。ブルガリアの民謡文化は一般的に「ブルガリアン・ヴォイス」という風と呼ばれ、世界中に知れわたっています。ブルガリアの民謡の一つ、ヴァリヤ・バルカンスが歌う「イズレロ・エ・デリョ・ハイデゥティン」は1977年に打ち上げられた無人探査宇宙船ボイジャー1号、お



よび2号に載せられた地球の文化を紹介するCDにまで記されています。ちなみに同じボイジャー1号・2号には日本の尺八(演奏者：山本五郎)の音も入っているのは意外と日本に知られていないことです。本日のブルガリア民謡のユニットはまだ宇宙には送られていませんが、気持ちを沢山込めてブルガリアの歌と音楽を紹介します。>>

【出演後の感想】

6) 韓国伝統舞踊

千明善(チョンミョンソン) 韓国伝統舞踊研究院

在日本大韓国民団神奈川県文化事業推進委員会

解説：千明善(チョンミョンソン)

踊り：園部和子(そのべ かずこ)、成仁淑(ソンインスク)、

李淑子(リースッチャ)、千完柱(チョンワンジン)、

斎藤光代(さいとう みつよ)

1. 花冠舞(ファガナム(宮廷での祝い舞))
2. 太平舞(テピョンム)(宮廷で舞う時の繊細な足先が特徴)
3. バンゴ(フィナーレ)



「在日本大韓国民団神奈川県地方本部を拠点に子どもから大人まで幅広い年齢層に韓国舞踊をはじめとする韓国伝統文化の素晴らしさを教えています。また、神奈川県内をはじめとする各種国際イベントに積極的に出演し韓国文化理解ならびに韓日交流に大きく貢献しております。皆様と最後に韓国舞踊で花を咲かせましょう。」

>>

【出演後にいただいた感想】 豪雨の中「30周年ユネスコ協会」に参加しました。私達は韓国人、在日韓国人、日本人のグループで、練習では韓国語、日本語が飛び交う中、東日本大震災の被害にあわれた方々の役に立ちたいと心をひとつにして練習に励みました。何とか舞台に間に合い、胸を撫で下ろしました。たいへんに盛り上がり、生徒たちもみんなほっとした感じでした。スタッフの方々にも親切にして頂き、このような催しに参加できましたことは先生始め皆の誇りです。(千明善)

7) ラテンアメリカの歌と踊り(Songs & dances from Latin American Countries)

カフェイリブロス (Café y Libros)

A. コロンビアとボリビアの歌

歌：ロサ・カルデナス (Rosa Cardenas 大使館員)

歌とギター伴奏：カルロス・セヴェリッチ (Carlos Ceverich)

1. コロンビアわが祖国
2. ベッサメ・モレニータ
3. アミーゴ：



B. アルゼンチンのタンゴ Tangos of Argentina

踊り：マルティン・チョーレン (Martin Choren) & ユキ・キムラ (Yuki Kimura)

1. タンゴ・ミロンゲアンド
2. タンゴ・ミロンガ



《20 数カ国あるスペイン語圏文化。500 年前、コロンブスがアメリカ大陸発見後、ヨーロッパ人、先住民、アフリカ人たちの混血が進み、豊かな文化が生まれました。文学音楽芸術などに現れています。

コロンビアの歌を駐日大使館勤務のロサ・カルデナスと、ボリビアのプロの音楽家カルロス・セヴェリッチの演奏。

また、アルゼンチンからは有名なタンゴをマルティン・チョーレンとユキ・キムラで踊ります。》



【出演後の感想】：コロンビアのロサさん、ロス・トレス・アミーゴスのカルロスさん、そして、アルゼンチンタンゴのチョーレンさんとユキさんが忙しい中、ラテンアメリカの歌と踊りを。心をこめて紹介させていただく機会をいただきました。自分の国の音楽と踊りの文化を紹介できるのはとてもうれしいことです。

歌を歌ってくださったコロンビアのロサさんは大使館にお勤めの合間をぬって練習され、4歳から演奏されているというロス・トレス・ディアマンテスのギターカルロスさんの伴奏で気持ちよく歌えたとのことでした。ラテンアメリカの音楽・文学・美術の強烈な魅力や人間的感情を大切に生きる生き方、多くの共通した面を持ちながらもそれぞれが確固とした独自性を有する国々。

それらのラテン文化をシェアし、いっしょに楽しむサロンが目黒駅近くの Cafe y Libros です。

<http://www.cafeylibros.com/> どうぞお越しください。(ルエダデレオン 礼子)

8) 白門 (Hakumon Glee Club) グリークラブ 男声合唱 (25名)

指揮：藤沢賢二(ふじさわ けんじ)

ピアノ：大庭直子(おおば なおこ)

アコーディオン：清水軍治(しみず ぐんじ)



1. 赤トンボ
2. ここに幸あり
3. 平城山
4. 川の流れるように
5. 箱根山
6. 斉太郎節



「1960年中央大学グリークラブのOBで結成され、創団50周年記念コンサートを本年(2011年)5月に開催しました。ハワイ、中国、韓国など、海外演奏も多く行っています。東京に本部をおき、新潟、長野と、「永遠の青年」達は若々しく？ 合唱活動を続けています。」



【出演後の感想】 今回のコンサートが大好評であったことは、会員のご紹介と協力で8団体の共演ができたこと、スタッフのご協力があったこと、正に支え合いの成果と感謝申し上げます。

中大グリークラブOBで構成された白門グリークラブは昨年創団50周年を迎えました。当協会発足の頃、新年会が開催された葵会館・JTホールに2年連続で出演しました。そして今回の記念事業コンサートに出演させていただきましたことは、白門グリークラブの誇りでございます。老いても益々歌い続けます。今後ともどうぞよろしくようお願い申し上げます。(特別事業実行委員長・副会長清水軍治)



最後に、「ふるさと」を、会場の皆様も、白門グリークラブの皆様と一緒に合唱し、会場一杯に歌声がひろがり感動が高まりました。

閉会の挨拶は、菊池賢介監事・実行副委員長が行いました。「『歌と踊りで世界をめぐる舞台』も、あっという間に2時間半が経ってしまいました。如何でしたでしょうか。

皆様のお力添えのおかげで、港ユネスコ協会も早いもので30年が経ちました。その陰には会員1人ひとりが港ユネスコの旗の下に力を合わせてきたことに他ならないと思います。

30年前、港区の素晴らしいフィールドにユネスコという種をまいて30年たった今年お陰様で大きな花をもう一つ咲かせることが出来ました。快くご出演をお引き受け下さった皆様にお礼を申し上げますと共に、会場で出演者と一緒になって笑顔と拍手で、楽しんで下さった大勢の皆様お陰で会場全体が一つになり素晴らしい熱気に包まれました。本当に心に残る30年の記念事業を終えることが出来ましたことにあらためてお礼申し上げます。



大変な盛り上がりのうちに終了いたしました。帰り際には、「いずれもが、とても見ごたえのある舞台・演技で、楽しくて、心から酔いしれた」と口々におっしゃって下さいました。

この場をお借りして、ご出演の皆様のご協力に対し、また、雨の中ご来場くださった大勢の皆様、心から御礼申し上げます。(まとめ：30周年記念特別事業担当委員会 高井光子)

フィンランドのクリスマス料理

講師 坂根シルックさん（フィンランド語通訳・翻訳家・語学講師）

日時 2011年12月10日（土）12:00～15:30

会場 港区立男女平等参画センター4階料理室



3歳から13歳まで大分県で過ごされたシルックさんはたいへん美しい日本語を話されました。

まずはフィンランドについてのお話です。人口は530万人あまり、面積は日本から四国をひいた位の大きさとのこと。1917年12月6日ロシアから独立して共和国になったそうです。

女性の参政権はヨーロッパでは最も早くからあり、仕事も家事も男女同じとのこと。

フィンランド料理の主食はじゃがいも。パンはライ麦パン。ドライフルーツやナッツを使うことも多い。12月24日から26日までは、家族揃って過ごし、クリスマス料理を楽しむそうです。クリスマス料理は、クリスマスシーズンが終わるまで、食されるそうです。

今回のメニューは下記の5品です。

JOULUKINKKU（ヨウル・キンック）＝クリスマス・ポーク

ROSOLLI（ロツソリ）＝ビーツと野菜のサラダ

PERUNAMUUSI（ペルナムーシ）フィンランド風マッシュポテト

JOULUTORTTU（ユウル・トルットウ）クリスマス・パイ

JOULUGLÖGI（ヨウル・グロギ）香辛料の入った温かいクリスマス・ドリンク

ライ麦パンとジンジャー・クッキーは、市販のものでしたがシルックさんのセレクトで添えられました。

JOULUKINKKU（ヨウル・キンック）＝クリスマス・ポーク

あらかじめ塩茹でして冷蔵庫で2日ほど置いたポークをホイルに包んでオーブンで焼いたもの。スライスしてマスタードをつけていただく。美味しいさっぱりした味でした。

ROSOLLI（ロツソリ）＝ビーツと野菜のサラダ

じゃがいも（メークイン）と人参はサイの目切りにしてゆでる。リンゴはサイの目切り、玉ねぎはみじん切り。水煮のビーツ、キュウリのピクルスもサイの目切り、これらを混ぜ合わせ生クリーム、ビーツの煮汁、ホワイトビネガー、砂糖少々入ったドレッシングをかけていただく。ピクルスですっぱ目の野菜にリッチなドレッシングが美味しかったです。

PERUNAMUUSI（ペルナムーシ）フィンランド風マッシュポテト

ジャガイモは男爵を使う。これに牛乳、生クリーム、バター、塩、コショウで味付けます。お馴染みの味ですがジャガイモが大変おいしくいただきました。

JOULUTORTTU（ユウル・トルットウ）クリスマス・パイ

市販のパイシートを使用しました。水煮したプルーンを真ん中においてパイシートは手裏剣状（十字に）してオーブンでやいたもの。パイシートはバターを使用したものを使うのがポイント。簡単かつ美味しいです。

JOULUGLÖGI（ヨウル・グロギ）香辛料の入った温かいクリスマス・ドリンク

赤ワイン、ベリージュース、それにシナモン、クローブ、カルダモン、ショウガ、レーズンやアーモンドスライスを加えて温めたもの。ホットワインです。口当たりがよくて思わずたくさんいただきました。

今回のクリスマス料理は比較的簡単にでき、味よし、見栄えよかったです。お正月 おせちにあきたらちょっといいかもしれません。寒いシーズンにはホットワインがいちばんです。

シルックさんのきれいで明快な日本語に感激しつつ参加者一同 早めのクリスマス料理賞味いたしました。

皆さま、ありがとうございました。



（世界の料理委員会委員 松崎加寿子）

2012年・新年会員懇親会

日時：2012年1月15日（日）12：00～14：30

会場：イタリアンレストラン「グリフォン」（港区白金台）

曇り空で寒い日でしたが、32名の会員が出席してくださいました。正午12時からスタートし、まず、最初に全員で記念写真を撮りました。

その後、高井光子会長から、「2011年度は港ユネスコ協会の創立30周年の年にあたり、事業が多くあって、さぞお忙しかったと存じます。しかしお陰さまで、皆様のご協力のもと、盛況に成功裡に終了しつつありますことは、たいへん有難いことだと感謝いたします。4月からは31年目が始まります。新たな出発の年として、皆様で力を合わせ、さらなる発展を目指して前進していきたいものと願っています。」との挨拶がありました。

松本洋副会長の「新しい年に際して、皆がそれぞれに、自分なりに考えて、協会に協力し、意見も出し、『自分の協会だ』という思いを持って活動して欲しい」という乾杯の発声によって、会食・歓談となりました。



ビール・ワイン・日本酒・ウイスキー・焼酎・カクテル・ソフトドリンクは飲み放題。前菜・イタリアンオムレツ・スパゲッティ等々の料理をバイキング方式で堪能しながら、皆さん個々のグループになってお話をされていました。

1時間くらいたってから自己紹介・近況報告タイムとなりました。司会役は秋山雅代さん。

三輪公忠名誉会長からスタートし、隣の席の方へと順番に進んでいきました。

何人かのお話をご紹介します。Mさん＝中国と国際平和について。Tさん＝孫が6月に誕生予定。自分なりに出来ることをゆっくりやっていきたい。Mさん＝昨年ハーフマラソンに参加した。今年はフルマラソンで4時間を切りたい。Nさん＝30周年記念行事は大変だったが、皆と親しくなれてよかった。「歌と踊りで世界をめぐる」の開場の2時間前から待っている方がいて、期待されていることが実感した。Kさん＝みなと区民まつりも30周年だった。どんな事業でも、参加を呼びかけたり啓蒙したりすることが大切だと思う。Sさん＝自分の所属する委員会も皆さんの協力を得ながら実施している。若い力が欲しいので若い人達への優遇措置を考えて、大勢入会してもらおうようにしたい。Mさん＝若い人に入会してもらいたい。会費を500円位にして勧誘してはどうか？ Sさん＝30周年事業「歌と踊り」の受けを担当した。今年も皆と一緒に盛り上げて行きたい。Tさん＝私の大切だと思うこと2つ。1つ、人生にはウィット・ユーモア、2つ、ケネディ大統領は「国家が何をしてくれるかではなく、あなたが国に何をできるか」と言ったが、港ユネスコに置き換えて「港ユネスコが何をしてくれるかではなく、私が何を出来るか」の精神を持ちたい。等々。ほんの数人のことばをご紹介しましたが、皆さんが生き生きと自分とやってきたこと、これからやって行きたいことなどを話されていました。

2時過ぎから新年懇親会恒例のビンゴゲームの始まりです。出る番号に一喜一憂しながら、12名の方々に景品（商品券・ビール券）が渡りました。

中川統夫副会長が閉めの挨拶をされました。「皆さんの協力で記念事業は無事終了し、あとは3月発行の記念誌を残すのみとなりました。4月からは、新たな気持ちで、さらに、港ユネスコ協会を発展させて行きたい。区の税収入が減少し、補助金事業への目も厳しくなってくると思われませんが、頑張りましょう。」



その後、一本締めで閉会となりました。

皆さん、親睦を深めていただけましたでしょうか？ お疲れ様でした。ご参加有難うございました。

（会員開発委員会委員長 成瀬成子）

今ブラジルが熱い！！

世界で存在感を高めるブラジル—その実力を追う

講師：筒井茂樹氏（元伊藤忠ブラジル会社社長、日伯農業開発副社長）



日時 2012 年 1 月 26 日（木）18：30～20：30

会場 港区立生涯学習センター305 号室

講師は会社生活 47 年間の 2/3 に当たる 28 年間でブラジルにおいて勤務され、4 年前に、最後の 10 年間で勤務された日伯セラード農業開発（CAMPO）の役員を退任されて日本に帰国された。しかし、現在も同社の諮問委員をされており、毎年 2 回は訪伯しておられるとのこと。

（1）ブラジルについて

- 1 国土面積 8.5 億ヘクタール（日本の約 23 倍）。農牧可能面積比は日本の約 50 倍。地球上の淡水の 20%を保有している。
- 2 人口 1 億 9000 万人 牛の頭数と同じ。ブラジルの牧草地 2 億 2000 万ヘクタールに、1 億 9000 万頭の牛がいるということは、1 ヘクタール当たり 0.86 頭の牛しかいないこと。全ての牛は放牧で育てられ、ストレスが無いので狂牛病も無い。アマゾンのジャングルを越える渡り鳥もいないので鳥インフルエンザもない。
- 3 首都：ブラジリア（1960 年にリオから遷都）。言語：ポルトガル語。連邦共和国（上院 82、下院 513）通貨：リアル（1 ドル=1.5—1.8 レアル）。
- 4 現大統領は：Dilma Rousseff 氏（昨 2011 年 1 月就任、ブラジル初の女性大統領）
- 5 GDP：2010 年 2 兆 1000 億ドルに達した。イタリアを抜き世界 7 位。2011 年は英国を抜き世界 6 位になった模様。日本の 40%であり、一人当たりの国民所得は 1 万 1000 ドルで中国の倍以上。

（2）ブラジルの強さと課題

今、世界からブラジルの実力が目に見え、BRICS の中では最も堅実に成長する資源大国として世界の注目が集まっている。他の新興国に比較して、ブラジルが次の 4 点で優位に有ると認識され出したからである。

① 政治の安定

民主主義が定着し政権交代のルールが確立している。国内及び周辺に民族問題や宗教対立がない。貧富の格差は有つても社会的な安定を揺るがす政治的特権階級や階級制度のような社会構造の歪がない。

BRICS の中で核を保有しない唯一の国。テロも無く土地は平坦で肥沃。気候は温暖で農業に適している。政権交代の透明度も高い。現に昨年（2011 年）1 月 1 日大統領交代があったが、交代に伴う混乱は皆無であった。世界の投資家が不安を抱くこともなかった。

② 世界最大の資源国

特定の資源に偏らず、殆ど全ての資源を保有し、その大部分が輸出可能である。その相当部分が輸出世界 1 であるという国は数少ない。

農産物：砂糖、コーヒー、オレンジジュース、大豆まめ、大豆粕、牛肉、ブロイラー、たばこの葉、砂糖キビエタノールは世界 1 位。

鉱物資源：80 種類以上産出する。特に鉄鉱石は生産、輸出とも世界 1 位である。

石油：2006 年から輸出国になった。同年サントス沖のツピープレサル油田（大陸棚の下にある塩岩層の更に下の 5000—7000m の超深海油田）が発見された。この油田の埋蔵量は最低でも 500 億バーレルといわれ、既存の 130 億バーレルを加えると 600 億バーレル以上となり世界 5—6 位の埋蔵量となる。

石油生産は、既に 200 万 B/D を超えており 2016 年には 400—600 万 B/D に達し、世界 6—7 位の産油国になる。天然ガスは、自給体制にある。

また、ブラジルのエタノールは、砂糖キビを原料としている。(米国のエタノールはトモロコシを原料とする。)だから、世界の食糧に悪影響はなく、生産コストも安く CO2 削減効果も高い。以上のことから、世界にエタノール時代が来た時はブラジルの一人勝ちとなろう。

エタノール車：ブラジルは世界の先進国。1985 年には乗用車の 90%がエタノール 100%車となった。が当時はフレックス車無く、その後の世界の石油価格の下落と砂糖相場の高騰により中断された。

その後石油とエタノールの燃料を如何なる混合比率でも可能にしたフレックス技術の開発により現在殆ど全ての車がフレックス車になった。

③ ブラジル民間経済のファンダメンタルズの強さ。

ハイパーインフレを克服し、先進国並みの物価水準に安定した。巨額の外債国から対外資産黒字国に。財政赤字と経常赤字の双子の赤字の改善により、海外の問題に影響されない強い経済基盤が構築された。

④ 新興国の中で唯一、経済が発展する中、所得格差が改善している国

ルーラ政権下で、貧困層 1200 万家族を対象に、子供に義務教育を実施することを給付の条件にした生活手当とインフレ率を上回る最低賃金の引き上げの 2 つの底辺に光を当てた政策が功を奏している。

2010 年、中産階級が初めて人口の 50%を超えた。

然しブラジルには多くの課題もある。70%を超える間接税、複雑で重い税金が大きなブラジルコストになっている。ルーラ政権の必死の取り組みにも拘わらず税制改革案は全て国会で否決された。

年金改革では公務員と民間年金の不平等改善策は一定の成果を上げたが道半ばである。

ワールドカップとオリンピックを控え、当面の緊急の課題は治安の悪さである。これも、経済が発展する中、貧富の格差の改善により少しずつではあるが改善に向かっている。2008 年から日本の JICA の協力により導入された交番制度も一定の効果あげつつある。

(3) 日伯関係

ブラジルは世界の中で最も親日国であると言われている。親日国である理由としては、主として次の 3 点が考えられる。

① 地政学的に距離が遠く過去も現在も領土問題など国益の対立がない。

② 2008 年 100 周年を迎えた勤勉で正直な日系移民が、ブラジルで草の根レベルにまで築いてくれた信頼がある。ブラジルには *Japones Garantido* (日本人は信頼出来る)という言葉がある。

③ 日本は戦後奇蹟の復興を遂げ、ウジミナス製鉄に始まる日伯セラード農業開発、アマゾンアルミ、セニブラパルプ、ツバロン製鉄、カラジャス鉄鉱山開発等ブラジルの資源プロジェクトに日本が協力してくれたので、今日のブラジルが資源大国としての基礎を築くことが出来たことを、ブラジル国民が大変感謝している。

特に、私が 4 年前まで勤務していた日伯セラード農業開発は、日本の 5 倍半の面積を有する広大な不毛の地セラードを、1975 年から開発を始めた。この時の大豆生産は僅か 30 万トンしかなかった。が、2010 年には 4084 万トンに達し、世界の 16%、ブラジルの 60%の大豆を生産する世界最大の穀倉地帯に変貌した。

1978 年まで大豆の輸入国であったブラジルは今や世界最大の大豆の輸出国となり、今日、新興国の経済の発展に伴う世界の食糧需要の増加に対応出来る数少ない国である。これは、日本が協力したセラード農業開発の成功が有ったからである。

毎年 10%以上の経済成長を続ける中国向けの大豆の輸出はこの 10 年間で、10 倍以上に増加した (2000 年 178 万トン、2010 年 1906 万トン、2011 年 2370 万トン)。特にブラジルの大豆の世界への輸出は 2009 年 2586 万トン、2010 年 2907 万トン、2011 年 3900 万トンであったので、ブラジルの世界に対する大豆の輸出に占める中国向け比率が 2009 年 61%、2010 年 66%、2011 年 61%を占めた。一方、中国の輸入大豆に占めるブラジル大豆の比率も 45%に達し、ブラジル 1 国が中国の食糧危機を救っていると言える。

この中国向けのブラジルの輸出を可能にしたのは、日本が協力した日伯セラード農業開発であり、もっと遡れば 2008 年に 100 周年を迎えた日本の農業移民があったからである。それ故、ブラジルは政府も国民も、日本がブラジルの資源開発に果たした貢献に大変感謝している。

また、「失われた日伯の 20 年」を経て日伯の経済関係も活発化して来た。今、ホットな日伯経済交流として 3 件が特筆できる。

1—世界で初めて日本式デジタル TV を採用したブラジルでの成功により、日伯方式として日伯共同の南米諸国への売り込み努力が実り、南米の全ての国が日本式デジタル TV の採用を決めた。

2—2016 年リオでの開催が決まったオリンピックまでに間に合わせるべく、リオ／サンパウロ間の高速鉄道化を進めている。

ジルマ新大統領の日本の新幹線の参加への期待が大きい。もし、新幹線がブラジルで採用されればデジタル TV 同様、将来日伯新幹線が南米全域に広がることも夢ではない。

3—世界の食糧増産と食糧安保に大きな貢献をはたした日伯セラード農業開発の経験と技術を活用し、今なお飢餓に苦しむアフリカにサバンナ農業開発を日伯の経済技術協力で行うという構想が生まれている。

1 昨年、日本、ブラジル、モザンビーク政府間で、実施に向けた覚書が調印された。もし、このプロジェクトが日伯の協力で実現すれば、また一つ新しい日伯協力のモデルが誕生する。

また、民間ベースでも日本の対伯直接投資が戻って来た。2010 年 25 億ドル、2011 年 74 億ドルに達し、昨年末の日本の対伯直接投資残高は一挙に世界 3－4 位に浮上することは間違いない。

外交面も日伯議員連盟を中心に極めて良好であり、国連常任理事国入りを目指し両国は共闘関係にある。ブラジルは今や G20 のリーダーとして新興国と先進国の利害を調整する大きな役割を果たしている。中国が台頭する中、日本が世界のプレゼンスを保つ為にも、良好な関係にある親日国ブラジルとの外交関係の維持強化がもとめられる。

4) ブラジルが熱い

最後に本日のテーマである今ブラジルが如何に熱いかについてお話をします。私は昨年も 2 回ブラジルに出張しました。2014 年にサッカーのワールドカップが、2016 年にはオリンピックがリオで開催されることが決まり、世界中でブラジルのプレゼンスが高まっています。経済が好調なこともあり、国中が希望と熱気に包まれているのが今のブラジルです。

昨年 1 月 1 日新しい大統領が誕生した。ルーラ前大統領はブラジル憲法が定める 2 期 8 年を全うし、政権末期のレームダック化（注：政治家などが任期末期になり権力を失う状態）も無く、最後まで 80% 以上の高い支持率を維持しました。これは彼のカリスマ性と、強いリーダーシップでブラジル経済を発展させ、ブラジル史上初めて社会の底辺に光を当てた政権として、国民が満足し高い評価を与えているからといえます。社会格差と所得格差と戦って貧富の格差を縮め、併せて、ブラジルを中南米のリーダーから世界の新興国のリーダーにしたのです。

また、ルーラ元大統領は大変な親日家としても知られています。彼が幼少時代丁稚奉公した日本人の洗濯屋さんに可愛がられ（当時の丁稚奉公は奴隷以下の扱い）、今もこの日本人の洗濯屋に感謝しているとのこと。

また彼の娘が日系人と結婚したことを「日本の血が自分の家族に入った」と誇らしげに語られるなど、親日家でないと口に出せないことの実証でしょう。

後任のジルマ大統領も大変日本の文化に関心が高い。日本移民 100 周年のブラジル代表として 2008 年訪日された時、東京／京都間を新幹線に試乗され、新幹線の技術の高さに感動し暫し車両から出られなかったと言う逸話もあります。また、その時彼女が訪問した秋の京都の紅葉の美しさと文化の深さに感動し、ブラジルに帰国後、



あらゆる機会に日本の素晴らしさを語られたと聞きます。このように、国民から大統領に至るまで日本がこんなに大きな友好の「含み資産」を持っている国はブラジル以外にないでしょう。日伯はこの「含み資産」を活用しお互いより重層的な協力関係を今後益々発展させることが出来ると確信しています。以上。

この要約文は、講師が作成して下さいました。お礼申し上げます。

希望と、元気に満ちたブラジルのお話を半ば羨ましく伺いながら、何よりも、講師のブラジルへの熱い思いを感じました。地球の反対側にあるブラジルですが、一度行ってみたい気になりました。（国際理解講座委員会）

「インド大使館」訪問記

日時；2012年1月24日（火）14：00～16：00

場所：千代田区九段南

五千余年の歴史と文化をもち、12億人を有する大国インド。この度、在日大使館訪問が実現しました。皇居のお堀・千鳥が淵の向かいという絶景の地に正門を構え、3年前に建てかえられた立派な大使館でした。

我が港ユネスコ協会の大使館訪問事業は、2002年1月のカナダ大使館訪問から始まり、年1度の恒例となり、国際理解の一助として定着してきました。今回のインド大使館は11番目の訪問先となります。

訪問の日は、前日の残雪があちこちで山積みされ、熱い国「インド」と全く逆の冬景色でした。

正門前で私ども参加者を笑顔で迎えて下さった大使館員の方をはじめ、皆さんが笑顔と心温まる「おもてなし」で、歓待して下さい、寒さもふっ飛んでしまいました。

最新の設備を備える大きくて、近代的な大使館ですが、インドから取り寄せた資材を随所に使っているとのこと。先ず入館して気付くのが、インドの有名な石窟「アジャンタ」の仏様の絵が展示されており、また、ヒンズー教の有名な神様「ガネーシア」の像が展示されていました。異なった宗教の絵と像を受け入れる「度量」の大きさというか、複雑さを感じ、ああ、ここはまさに「インド」の一部だなと感じました。

3階の図書室には、英語や現地語で書かれた蔵書が並び、開放されているとのことでした。

予想もしていなかったのですが、私達のために、ヨガの体験実習とインドの伝統的楽器「タブラ」の実演体験の機会を与えて下さいました。インドが世界に誇る「文化と伝統」の先生をわざわざお呼びして、実演して見せて下さるだけでなく、私達にも一緒に体験させて下さいました。



「ヨガ」が人間の健康を増進するのにいかに大切かを、先生が強調していた声が、耳の奥深くに残っています。だからこそ、5千年も続き、世界中に広がっているのでしょう。

また、大小のタブラを、手のひらと指で打つことで出す音色やリズムも、心を癒し、軽快にしてくれたように感じました。

広い映像視聴室で約30分間素晴らしい自然風景や文化遺産を見せていただきました。

インドには、「ユネスコ世界遺産」で知られる文化遺産が21件、自然遺産が5件あると伺いました。

日本が「木と紙」の文化の国と言えるなら、インドは「石」の文化の国と言えるのでしょうか。奈良の法隆寺とアジャンタやエローラの石窟寺院を連想し、その感をより深くいたしました。

主席公使のパンダ様が、お忙しい中、歓迎の挨拶に来て下さいました。「1952年4月に”日本インド国交樹立”がなされて、今年で60年目になります。記念として今度の札幌の雪まつりに、タージマハールの建物の彫刻を出品します。インドと日本は、文化的にも、社会的に大きな違いがあります。インドは多様性の国で、例えば、22の公用語があります。高齢の日本に対し、インドでは、25歳以下の人口が55%です。インドの代表的食べ物はサモッサですが、日本は寿司ですね。随分違います。このように、違った2つの国が良いパートナーとなって、力を合わせると、大きなパワーが生まれます。助け合って大きく発展していく可能性を秘めています。インドと日本の関係が、人的面でも、文化面でも、また、技術や経済面でも、更に深く、広がっていくことを念じます。皆さん、今日のご来館ありがとうございました。」とにこやかに、話されました。

誠に温かいお言葉と「心に触れるホスピタリティー」に接し、深く感激した一日となりました。

お別れの時に、資料を沢山いただきました。遠い国と思っていたインドが身近に感じるようになったのは、私一人だけではないと確信いたします。来年の大使館訪問には、参加者が更に増えることを強く希望いたします。

（会員開発委員会担当常任理事 友金守）

自動車、自転車、人力車

港ユネスコ協会 三輪公忠名誉会長



東京にも大雪が降った。晴天が続き、カラカラ日和の後だから、ちょっと嬉しかった。テラスの梅、もう何年になるのだろうか。湯島の天神さんで買ったものが、はじめで、四鉢ある。かれこれ二十年にはなるだろう。人間なら成年式をする年だが、実はもう随分前に過ぎていることに気付いた。

次女が未婚の頃、梅見にいて求めたのだったから。その娘が嫁いで、生まれた長女が今年成年式をしたのだ。今年の中襟がいくとかで、家内が仕舞ってあった実母のものを三女も手伝って選んだりして、当日、長女の所の三女ともども振袖を着て幸せを振りまいてくれたばかりだったのだから。

年によっては暮れの中に紅梅はちらほら咲いた。春でもないのに、ほんとの春が来たらどうするのだろうかと気をもんだものだ。花のない梅の盆栽。そんな春は惜しいな。暖冬のせいだな。それが今年はやようよう小さな蕾が紅を帯びてきた。そこに大雪。良い風情。

だけど家のものは、転ぶから、今日は家にいてください、という。大丈夫だよ、ちゃんと雪が降ったり、氷が張ったりする信州の冬を過ごしてきた少年時代があるのだからと、高輪の仕事部屋に向かう。もう凍り始めているのか、滑らないようにしっかりと歩む。

自宅の前の雪かきをしている人に挨拶する。その家の大柄な中年の主人は、いたずら小僧のように微笑んだ。白金台の駅までの道路は個人の商店などは雪かきが出来ている。アメリカやカナダでは雪かきもするが、散水車でなく塩撒き車がきて雪解けを促す。東京都、港区など行政は「想定外」の大雪とでも言うのだろうか。

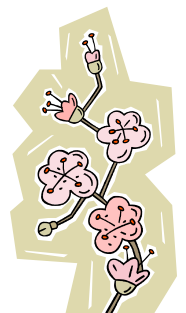
駅前など一番雪かきが済んでいるだろうと思ったが、白金台の二番出口は全くその逆。泉岳寺口の出口は歩くのに支障は無い。だが BMW の店先まで来て、なるほどね。車の出入りする所は除雪してあるが、間口の広いこの店のほかの部分には積雪のまま。

三日も降ったり止んだりしたのだったかな。大通りなら、もう今日は雪はあるまいと、徒歩で高輪まで行く事にした。ところが都ホテルの隣のトヨペットの店先には吃驚した。店舗よりのところに一筋猫道のように踏みつけられた通り道がついているだけで、歩道の積雪はそのまま。ただ自動車の出入りする箇所だけが除雪してある。その翌日は雪は凍結して、そのまま。ああ、と慨嘆する私。

このマナーはなんだろう。日本の自動車が斜陽産業になりつつあるというが、気持ちのインフラはすでに既にここまで落ちている。

浅草には、観光用に人力車が走っている。健康管理とアルバイトが両立するといっていた、中年の元フリーター車引きのことをおもいおこした。自転車も健康志向ではやっている。しかしこれにも問題がいっぱい。チリンでもなく、灯火もともさず、雨の日には傘さして、子供やら、ペットやらおのせて、歩道を擦過してゆく。横断歩道だって、携帯見つめてぶつかってくる歩行者もいる。大都市の大通りに都会的でない生き物が徘徊している。

癒し、癒しと言ってきたこの社会に、絆、絆、が加わった。これがこの国の現状。昔確かにあった筈だが、今は幻だったかとさえ思われる、日本人のつつましい文化が懐かしい。(2012・1・28)



東日本の教育の復興を支えるために

東日本大震災子ども支援活動

「ユネスコ協会就学支援 奨学金」へのご協力を

昨年3月、東日本大震災の直後に、国連のユネスコ本部のイリーナ・ボコバ UNESCO 事務局長は、「大地震と津波で被災した学習者や教師への支援を訴える」という声明をホームページで発表し、世界各国の人々に支援を呼びかけられました。

「世界中のすべての人々が恐るべき自然の力に衝撃を受けるとともに、日本の人々がそれを克服しようとしている姿に感銘を受けています。私は、今回の大地震と大津波の被災地に住む日本の子どもたちと先生方を支援するために、温かいご支援を願い申し上げます。」と。

そして、イリーナ・ボコバ UNESCO 事務局長は、過密なスケジュールのなか、今年2月に日本の被災地にまで足を運ばれ、直に被害の状況を目にされ、被災者の方々と親しく話されたそうです。また、東京ではチャリティパーティーを開いて募金を集められ、さらに、日本ユネスコ協会連盟の皆様に向けて、あらためて、被災地の子どもたちと先生方への支援を呼びかけられました。

以下は、公益社団法人日本ユネスコ協会連盟のおしらせから、東日本大震災子ども支援活動「ユネスコ協会就学支援奨学金」についての抜粋です。

「大震災からまもなく1年になります。被災地は少しずつ復興に向けて歩みだしています。震災の影響で、経済的な理由で子どもたちは、7万3千人以上と推測され、また、小学生と中学生に限定した場合は、3万4千人にのぼるといわれています。

そのような被災地の子どもたちが、希望を持って明日へと歩いていくために、子どもたちの学びを支援するために、奨学金制度「ユネスコ協会就学支援 奨学金」を創設しました。

この制度は、震災による家屋流失・破壊及び原発による退避等により、著しく家庭の経済状況が悪化したために就学困難になった被災地の小学校・中学校に在籍する児童・生徒を対象とします。奨学金は月2万円として、3年間にわたり支援を行います。」

港ユネスコ協会の会員の皆さま、

「ユネスコ協会就学支援 奨学金」への温かいご支援、ご協力をお願いいたします。

ご支援方法としては、港ユネスコ協会の郵便口座に、お気持ちの額をお振込みいただけますと幸いです。まとめて、事務局から、日本ユネスコ協会連盟に送金いたします。ご協力のほど、よろしくをお願いいたします。

郵便振込口座番号：00190-4-73732

口座名義：「港ユネスコ協会コアアクション」



港ユネスコ協会 創立30周年記念誌

発行予定日は、今年3月31日です

創立30年となったのを記念して30周年記念誌を発行いたします。

これまで創立15周年記念誌発行のあと、5年ごとに発行した20周年記念誌と25周年記念誌は、三輪公忠会長（当時）の巻頭言（和文と英文）を巻頭言集といたしました。

30周年記念誌には、お祝辞に加え、2011年秋に行った3つの30周年記念事業の報告記事、2006年～2011年の事業報告、創立時から2012年3月末までの30年間に行った事業を、事業別にまとめた記録を資料として載せています。いましばらく、お楽しみにお待ち下さい。

(30周年記念誌発行委員会)

事務局便り



【今後の行事予定】（詳細は別途、チラシやホームページでご案内いたします）

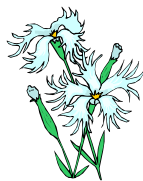
- ☆ 3月17日（土）12:00-15:30 西アフリカ・マリの家庭料理（お話と実習）
港区立リーブラ(田町) 参加費：1,300円（会員）、1,800円（一般）
- ☆ 4月17日～7月24日 英会話中級クラス 毎火 18:30-20:30 コース全14回
講師：マーク・マードック先生 港区立リーブラ(田町)
- ☆ 4月18日～7月25日 英会話初級クラス 毎水 18:30-20:30 コース全14回
講師：マーク・マードック先生 港区立麻布区民センター
英会話クラス参加費14回（初級・中級）：会員 22,000円、一般 24,000円、教科書 1,800円位
- ☆ 4月24日(火)18:30-19:30 港ユネスコ協会年次総会（生涯学習センター305号室）
- ☆ 5月17日(木)18:30-20:30 新入会員を囲む会（生涯学習センター305号室）

【ご寄付およびご寄贈品ありがとうございました】

☆新年懇親会に 清水軍治副会長からビール券、中川統夫副会長から商品券のご寄付がありました。

(A) 日ユ協連の東日本大震災 子ども支援義援金（災害遺児への奨学金）として活用されます。

- ☆ 11月19日 30周年記念行事「歌と踊りで世界をめぐる」会場での募金 51,814円
(日ユ協連へ送金済み)
- ☆ 1月26日 国際理解講演会「今ブラジルが熱い！」会場での募金 3,000円



(B) ミンダナオ子ども図書館への支援義援金

- ☆ 2012年1月(株)ブルボン様から(永井美智子監事を通じて) 20,000円

品物寄贈のお願い

ミンダナオ子ども図書館へ送る夏物衣料、日用品などの寄贈品(新品でなくても可)を、事務局までお願いいたします。

港ユネスコ協会事務局 (火～金 10:30～17:30)

〒105-0004 東京都港区新橋 3-16-3 TEL 03(3434)2300 TEL・FAX 03(3434)2233

Eメール：minato-unesco@nifty.com ウェブサイト：<http://minato-unesco.jp/>

■ 編 | 集 | 後 | 記 ■

◆ 早いもので今年もふた月目の後半に入ってしまった。寒い日が続いたせいか梅や河津桜のような花々の開花も大幅に遅れているようで、春の訪れを目で実感できる日が待ち遠しい。一方、目を世界に向けてみると、アラブの春も一頃の熱いうねりから、安定的な基盤作りが問われる段階に入っている。少しでも多くの人々が春のまったり感を味わうことができればと願う。(須田康司)

◆ グローバル化の時代を迎え、世界の各地で、移民とホスト国の受け入れ政策との間に生じる課題がクローズアップされている。多文化主義は失敗したと分析する見方がある一方、移民がもたらす文化の多様性を脅威でなく、チャンスと捉えて「インターカルチュラル」なコミュニティの構築へ結びつけるべきとの提案もある。異文化交流に携わるユネスカンとして目が離せない。(棚橋征一)

◆ 昨年度最後の事業「ディプロマツツ・レクチャー」が成功裡に終了してホッとした翌日の3月11日、東日本大震災が起こりました。あまりのショッキングな出来事に日本中が打ち沈んでいる時に、「ナデシコ・ジャパン」が世界で優勝して元気をくれました。先日2月22日の朝日新聞に「3万年の眠り ナデシコ咲いた」というニュースが載っていました。「3万年前の氷河期に自生していたナデシコ科の花を、ロシアのチームが化石の一部を培養して白い花を咲かせることに成功。化石は地下38mに、氷河期のリスがエサを貯めていた巣穴から見つかったもので、現代によみがえった最古の植物」だとのこと。可憐なナデシコの、奇跡のような、素晴らしさに感動しました。(高井光子)